

議員提出議案第7号

北陸新幹線の米原ルートへの再考を求める決議

上記の議員提出議案を別紙のとおり会議規則第14条の規定により提出する。

令和6年6月26日

能美市議会議長 田中 大佐久 殿

提出者 能美市議会議員 東 正 幸

賛成者 能美市議会議員 杉 田 隆 一 南 山 修 一
田 中 策次郎 山 本 悟
仙 台 謙 三 北 村 周 士
卯 野 修 三 山 下 毅
今 尾 晃 司 澤 田 貞
中 村 純 子 荒 井 昌 宏

北陸新幹線の米原ルートへの再考を求める決議

我が国は、頻発化・激甚化する自然災害、加速する人口減少と少子高齢化、首都圏と地方、太平洋側と日本海側における格差の拡大など、将来へ先送りできない国家の将来像を左右する課題に直面している状況である。それら諸課題は、令和6年能登半島地震において改めて顕在化し、私たち石川県民のみならず、多くの国民が抱いた思いではないだろうか。

本年3月に石川県内全線開業、敦賀駅開業を迎えた北陸新幹線、それらの整備根拠となる全国新幹線鉄道整備法では、高速輸送体系の形成が国土の総合的かつ普遍的開発に果たす役割の重要性に鑑み、新幹線鉄道による全国的な鉄道網の整備を図り、もって国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興に資することが目的であると明確に示されている。

まさに、我が国の直面する課題解決に直結する新幹線鉄道整備は、地域間の移動時間を大幅に短縮することになる格差の是正と相互の交流を促進し、産業や観光振興をはじめ、人口移動の活性化など、日本社会全体に多大な効果をもたらすものである。

本来、北陸新幹線は、首都圏が位置する太平洋側とその対極に位置する日本海側とを接続することで、大規模災害等の有事の際に東海道新幹線の代替補完機能を果たし、同時に、国土の強靱化と均衡ある発展の面でも大きな意義を有している。さらに、日本海沿岸地域に高速交通・通信体系等の国土基盤を整備し、社会や経済・文化などを結合しようとする日本海国土軸の形成において、道路網や鉄道網の早急な整備は必須事項であり、速達性と輸送性に優れた北陸新幹線は必要不可欠な要素である。

この北陸新幹線の意義は、太平洋側と日本海側がフル規格新幹線につながらなければ意味をなさず、一日も早い接続の実現が求められている。しかしながら、敦賀以西については着工の見通しすら立っておらず、その間、上述したような我が国が直面する危機的課題は進行し続け、日本の将来に大きな影を落とすであろうことは、今や明らかな状況となっている。

このような状況を踏まえ、直面する課題を先送りせず、早期に新幹線によって太平洋側と日本海側、首都圏のみならず関西圏とも接続をするためには、建設の延伸、施工期間、建設コスト、環境への配慮、文化財の保護など、あらゆる面か

ら総合的にみても、敦賀・米原間で接続されることが最良の選択である。とりわけ、北陸地域は首都圏、関西圏、中京圏のそれぞれの中間地点に位置することから、各圏域と新幹線により接続されることは、北陸地域全体、日本海側一帯の発展にも大きな恩恵をもたらすことが期待できるものである。

よって、私たちは、財政的な負担を押さえつつも、より早期に北陸新幹線を太平洋側、東海道新幹線へと接続し、国家プロジェクトとしての初期の目的を一日も早く実現するためにも、改めて、米原ルートへの再考を強く要望するものである。

以上、決議する。

令和6年6月26日

石川県能美市議会